

日本 IBM 及び川崎市と量子コンピューティング技術の 普及と発展に関する基本協定を締結

国立大学法人東京大学（所在：東京都文京区、総長：藤井 輝夫、以下「東京大学」）は、日本アイ・ビー・エム株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役社長：山口 明夫、以下「日本 IBM」）及び川崎市と、量子コンピューティング技術の普及と発展を図るため、相互の協力に関する基本協定を締結しました。

本協定により、東京大学と日本 IBM 及び川崎市は、量子コンピューティング技術の普及と発展を図るとともに、科学技術及び地域経済の振興などの地域貢献に資するため、次の協力事項に取り組んでまいります。

1 名称 国立大学法人東京大学、日本アイ・ビー・エム株式会社、川崎市による量子コンピューティング技術の普及と発展に関する基本協定書

2 締結日 2021 年 6 月 10 日

3 背景

日本 IBM は、東京大学と IBM による「Japan IBM Quantum Partnership」で表明していた日本初（アジア初）のゲート型商用量子コンピューティングシステム「IBM Quantum System One」の国内設置拠点について、新川崎・創造のもり かわさき新産業創造センター（KBIC）に決定したことを 2021 年 3 月に発表しました。ここに設置される量子コンピューターは東京大学と IBM との契約に基づき東京大学が使用权を占有するもので、東京大学はこのシステムを活用し、企業、公的団体や大学等研究機関と量子コンピューターの利活用に関する協力を進めていく予定です。量子コンピューターの常時安定稼働にはインフラの安定供給や耐振動環境が必要で、KBIC は川崎市の全面的支援により安定稼働に最適な環境を実現しており、研究活動が加速することが期待されます。なお、稼働時期は年内を予定しています。

4 本協定による協力事項

(1) 新川崎・創造のもり かわさき新産業創造センター内、ナノ・マイクロ産学官共同研究施設（NANOBIIC、川崎市幸区）に設置する量子コンピューターの安定稼働に関すること。

- ・クリーンルームの安定運用
- ・機器の安定稼働
- ・エンジニア常駐
- ・クラウドによる提供 等

- (2) 当該量子コンピューターの利活用の拡大など、普及促進に関すること。
- ・市内の企業・研究機関等を巻き込んだ量子技術の社会実装の促進
 - ・アプリケーション研究
 - ・量子イノベーションイニシアティブ協議会拡大・発展
 - ・利活用企業拡大支援 等
- (3) 当該量子コンピューターを活用した人材育成に関すること。
- ・次世代の量子ネイティブの育成と理数系科目への興味・関心の喚起
 - ・人材育成支援 等
- (4) その他、目的達成のために必要な事項に関すること。

※日本 IBM による「かわさき新産業創造センター (KBIC)」の「NANOBIC」への設置決定については、2021 年 3 月 23 日付け同社プレスリリースをご参照ください。

<https://jp.newsroom.ibm.com/2021-03-23-Shinkawasaki-Creation-Forest-Kawasaki-New-Industry-Creation-Center>

【本件に関する報道関係者からの問い合わせ先】

国立大学法人東京大学 産学協創部 E-mail : kyoso-info.adm@gs.u-tokyo.ac.jp

メールの件名の冒頭に【IBM・川崎市協定】と記載していただきますよう、お願い申し上げます。